

2020年度入学生に贈る言葉

新入生の皆さん、早稲田大学大学院政治学研究科へようこそ。心よりお祝いを申し上げます。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響により、入学式において皆さんの新たな出発を直接お祝いする機会は失われました。また、新学期の授業開始も遅れることとなり、皆さんは、門出に大きく水をさされた思いでしょう。

しかし、皆さんも当然ご存じのように、こんなウィルスのために、皆さんの健康、ましてや命が失われてはならないのです。また皆さんの周りの親しき人たちが、命を落としてはならないのです。どうぞご理解をいただけますようお願いいたします。

現在のような危機の時代にこそ、皆さんのように、知性をさらに磨き、政治や社会の持つ課題に立ち向かう人々が最も必要とされます。このウィルスに対する対応を見ても、国内社会においても国際社会においても政治の劣化は明らかです。しかし、同時に、政治の劣化は社会の劣化を映す鏡でもあります。マスクとトイレトペーパー、そして食料の買い占めに走る社会の愚かなあり方から、まともな政治が立ち現れることなどあり得ないからです。なぜこんなことになっているのか、それについては、このサイトの「研究科長挨拶」に私の考えを述べてありますので、そちらをご覧くださいと思いますが、端的に一言でいえば、それは社会にはびこる「反知性主義」の潮流にこそその原因があるということになるでしょう。だとすれば、これから政治学の研究という知的アリーナに足を踏み入れる皆さんこそ、この危機からの脱却の道を探る能力を鍛え、政治、ジャーナリズム、そして公共政策の分野でその能力を発揮していく最も重要な人材だということになります。

現在の政治と社会の隘路から私たちがどう抜け出すのか。わたくしたち政治学研究科の教員と職員は、この問題意識を共有し、皆さんの健康と命を守り、さらに皆さんが危機を乗り越えるための知的な体力を鍛えていかれる機会と環境を整備するために全力を尽くしていきます。

新入生の皆さん、困難な時にこそ、人の真価が問われます。皆さんが修了式を迎える時には、この危機を乗り越え、ともに知の勝利の凱歌をあげようではありませんか。

令和2年4月1日

大学院政治学研究科 研究科長 田中 孝彦